

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200390		
法人名	医療法人 なごみ会		
事業所名	酒井医院グループホームなごやか		
所在地	佐賀県唐津市鎮西町名護屋4198番地		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年1月16日	外部評価確定日	平成30年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お一人お一人の心に寄り添い心なごむ日々をお手伝いさせていただきます。の理念と拘束・虐待排除理念の基 ☆その「人」の世界を受け止めよう。 ☆介護のプロとして理由を言える仕事をしよう。 ☆入居者様の楽しみを大切にしよう。 ☆入居者様が心なごむ雰囲気づくりをしよう。 を合い言葉に医師、栄養士、介護福祉士、理学療法士、看護師、薬剤師等専門職の専門を活かしながら連携し 本人ご家族の意思を尊重し個性を大切に、地域の方の協力を頂き、恵まれた自然豊かな環境の恩恵を受けながら 過ごして頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>見直された理念は、より身近な存在となり、日々のケアに活かされている。中でも「入居者様の楽しみを大切にしよう」と謳い、それをケアプランに反映させていることは自己評価にも記されている。利用者が張り合いを持ちながら暮らすことに職員自身も喜びを感じているのが窺える。また、入居をきっかけに本人が落ち着いてきたと話す家族も多く、ケアを省みながら自信にもなっている。更に、当外部評価の自己評価部分を全職員に書いてもらったことは、現場で直に利用者に関わっている自覚と自身のケアの振り返りにもなり、相乗効果を生んでいる。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	実施状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を意識した理念をスタッフ全員で考え出勤時に理念を唱和し共有と実践に繋げている。	地域密着を意識した理念をスタッフ全員で考え出勤時に理念を唱和し共有と実践に繋げている。	理念には法人全体で掲げているものと事業所独自のものがある。後者は事務長の言葉もきっかけとなり昨年見直され、職員全員が想いを出し合い創り上げたものである。そのプロセスは各々に変化をもたらし、意識付けにもなっている。「介護のプロとして理由を言える仕事をしよう」等々、職員の自信にも繋がり、タイミングを図れるようになった事で私語も減るというケアを実践している。また、常に立ち戻る原点として、この介護理念は指導にも活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の獅子舞、小学生の訪問交流、中学生からの暑中見舞い、幼稚園児の訪問交流、地域のボランティア等年間通して交流している。毎朝の児童の登校時の交流も続いている。	地区行事の獅子舞、小学生の訪問交流、中学生からの暑中見舞い、幼稚園児の訪問交流、地域のボランティア等年間通して交流している。	自治会に加入し、積極的に地域に関わろうとしている。小学生の授業や地区行事の一行が立ち寄る場であり、様々なボランティアの受け入れも行っていることからその姿勢は窺える。また、一斉清掃日の代わりとして事業所周辺の溝掃除を任せてもらうなど、そこに暮らす一員としての自覚もある。地域の情報等はボランティアで訪れた方々や近所の運営推進会議メンバーからも得られており、孤立することなく地域に受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービス、居宅を併設しており、利用者の情報交換や交流を通して地域への認知症の理解や支援方法等を発信している。	デイサービス、居宅を併設しており、利用者の情報交換や交流を通して地域への認知症の理解や支援方法等を発信している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1/2月制度開始から約10年の実績がある。会を通じての顔なじみや出席者同士が交流がある等和やかな雰囲気地域で細かい情報が頂けている。	1/2月制度開始から約10年の実績がある。会を通じての顔なじみや出席者同士が交流がある等和やかな雰囲気地域で細かい情報が頂けている。	殆どのメンバーが出席し、約一時間の会議である。事業所からの報告の他、出席者にとっても有意義な機会となっている。事業所は地域の風土(土地柄)などを教えてもらい、専門職としての知識を伝える場にもなっている。会の中では、具体的に尋ねるといった質問の仕方メンバーの意見をうまく引き出している。家族の出席については、今後は広く募ることも検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者や管理者を中心に日頃より電話等で助言等を頂いている。	代表者や管理者を中心に日頃より電話等で助言等を頂いている。	行政側のグループホーム担当者とは疑問点などあれば常に連絡を取り、必要であれば出向き、相談をしている。保険者である行政側にも一緒に取り組む姿勢がみられ協働関係は築けている。最近の例では、介護報酬の算定や法令の解釈の仕方などを相談し、確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等排除理念の基、定期的に身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を研修等を通じ共有し業務の振り返りや工夫をしてケアに取り組んでいる。	身体拘束等排除理念の基、定期的に身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を研修等を通じ共有し業務の振り返りや工夫をしてケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解しており、年一回は必ず研修も受けている。玄関に施錠はなく、センサーの設置はあるが職員の見配りでカバーされている。仮に外へ向かう利用者があれば無理に引き返すことはせず、納得するまで暫く一緒に歩くというのが基本である。行動を抑えることはない。もし不適切なケアがあれば理念を説き、本人に考えさせる指導をすることとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待をしない施設として定期的に研修を実施し学ぶ機会を持つと共に痣や傷がある場合はスタッフ全員で共有し原因や対策会議を実施し防止に努めている。	法人全体で虐待をしない施設として定期的に研修を実施し学ぶ機会を持つと共に痣や傷がある場合はスタッフ全員で共有し原因や対策会議を実施し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修を実施しスタッフ全員で学ぶ機会を持ちご家族へも情報提供を心がけている。実際に成年後見制度を利用されたご家族がある。	権利擁護についての研修を実施しスタッフ全員で学ぶ機会を持ちご家族へも情報提供を心がけている。実際に成年後見制度を利用されたご家族がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相互間の事前訪問、面談等で入居に関する内容の確認し不安や疑問の解消に努め納得頂いた上で契約締結、解約等の手続きを心がけている。	相互間の事前訪問、面談等で入居に関する内容を確認し不安や疑問の解消に努め納得頂いた上で契約締結、解約等の手続きを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御面会時は必ず面談し、情報交換し要望等を反映できるように努めている。	御面会時は必ず面談し、情報交換し要望等を反映できるように努めている。	家族の来所は多い。遠方などあまり来られない家族へは毎月の利用料送付の際に添える近況が役立っている。家族と会える機会は大切にしており、世間話なども交えながら想いも話してもらえよう努めている。独自に苦情相談員を置いていることには真摯に耳を傾ける姿勢が窺える。利用者の些細な変化に気付き、受診を勧め、病気が発見できた例もあり家族からは感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談し職員の意見や提案を聴く機会を設け運営に反映させるようにしている	定期的に面談し職員の意見や提案を聴く機会を設け運営に反映させるようにしている	月一回、約2時間、2ユニット合同の職員会議があり、これには休みの職員も出席している。利用者ごとに担当職員を決めており、カンファレンスや周知事項、勉強会など限られた時間を要領よく進めている。当外部評価の自己評価部分を職員全員に書いてもらい、それを管理者がまとめるという手法も功を奏している。自主性が育ち、書いてもらうことで職員の考えも伝わるからである。管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、物品や設備の検討はもとより、職員とのコミュニケーションは特に大切にしている。また、現場の声は法人上部へも届けられる環境である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(西) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度に取り組み、2回/年の評価の機会を設け職場環境や条件の整備に努めている。	目標管理制度に取り組み、2回/年の評価の機会を設け職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修及び職員の能力に合わせた研修を促し、採用時はOJT制度を定着させ相互に向上できるよう取り組んでいる。	毎月の内部研修及び職員の能力に合わせた研修を促し、採用時はOJT制度を定着させ相互に向上できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や福祉関連事業の入会、及び市のグループホーム連絡会に加入しネットワークづくりや勉強会を通じて質の向上に繋がるよう取り組んでいる。	グループホーム協会や福祉関連事業の入会、及び市のグループホーム連絡会に加入しネットワークづくりや勉強会を通じて質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問で面談すると共に生活環境の変化のリスクを理解し、生活の中で本人と確認しながら安心に繋がるようチームで取り組んでいる。	事前訪問で面談すると共に生活環境の変化のリスクを理解し、生活の中で本人と確認しながら安心に繋がるようチームで取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時や電話等で連絡をとる機会を大切に出来るだけ丁寧に面談し関係づくりに努めている。	訪問時や電話等で連絡をとる機会を大切に出来るだけ丁寧に面談し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを丁寧に実施しサービス開始時に必要な支援を見極めるようにしている。	アセスメントを丁寧に実施しサービス開始時に必要な支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ能力に合った役割を持っていただき入居者様主体のホームであることを常に念頭に置きケアに努めている。	それぞれ能力に合った役割を持っていただき入居者様主体のホームであることを常に念頭に置きケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(西) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始時より共に支えあう関係でありたいことを共有し理解を求め、本人と家族の関係の絆を大切にしている。	サービス開始時より共に支えあう関係でありたいことを共有し理解を求め、本人と家族の関係の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友関係や生活環境等の情報を大切にし関係を繋げられるように努めている。	交友関係や生活環境等の情報を大切にし関係を繋げられるように努めている。	把握のためには本人や家族、担当ケアマネジャー、場合によっては利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。具体的な例として電話の取次ぎはいつでも可能であり、お正月の帰宅(宿泊も)や墓参り等々、家族の協力も得ながら支援している。歳を重ねるごとに手紙など難しくなったものもあるが、繋がりが継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を大切にしそれぞれの関係を理解しより良い関係が築かれる様に配慮して支援している。又、トラブルが生じたときお互いダメージが残らないように配慮して関わっている。	入居者様の個性を大切にしそれぞれの関係を理解しより良い関係が築かれる様に配慮して支援している。又、トラブルが生じたときお互いダメージが残らないように配慮して関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の条件により退居後のサービスを見据えた担当者会議を実施しスムーズな生活の移行に繋がるよう支援している。	退去の条件により退居後のサービスを見据えた担当者会議を実施しスムーズな生活の移行に繋がるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員毎日の関わりの中で一人ひとりの思いや意向に関心を払い把握しようと努めている。コミュニケーションが困難な方は表情やご家族や関係者から情報を得ると共に本人本位で検討するようにしている。	職員全員毎日の関わりの中で一人ひとりの思いや意向に関心を払い把握しようと努めている。コミュニケーションが困難な方は表情やご家族や関係者から情報を得ると共に本人本位で検討するようにしている。	利用者が想いを話してくれるのは入浴中などリラックスしている時が多い。また、表情など細かい変化にも注意を払っているため発語の少ない利用者からも汲み取っている。それらは引継ぎ時に口頭で伝え合ったり、個別ファイルにも記し共有を図っている。ケアプランに反映させた例もあり、センター方式も活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から得られない場合ご家族等より情報を頂き本人の行動や考え方の理解に努めている。	本人から得られない場合ご家族等より情報を頂き本人の行動や考え方の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何が出来るのか潜在能力はどうか、どうすれば日常に活かしその方の自信に繋げられるか情報の把握・共有に努めスタッフ全員で毎日取り組んでいる。	何が出来るのか潜在能力はどうか、どうすれば日常に活かしその方の自信に繋げられるか情報の把握・共有に努めスタッフ全員で毎日取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にアセスメント・モニタリング・カンファレンス等関係者で漏れなく共有し統一したチームケアが実施されるように取り組んでいる。	担当者を中心にアセスメント・モニタリング・カンファレンス等関係者で漏れなく共有し統一したチームケアが実施されるように取り組んでいる。	ケアプランの設定期間は6か月ごとだが、変化があれば臨機応変に見直しを行っている。本人の希望は日々の関わりの中で把握し、家族の要望等は会話から汲み取っている。現状維持を願う家族は多く、リハビリなどの声も届いている。職員には理学療法士もおり、そのケアを受ける表情には安心感が見て取れる。また、一人ひとりの楽しみを反映させ、個性を大切にケアプランでもある。通常のサービス計画書に加え独自の様式もあり、利用者毎の担当職員が細かく記している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分出納・排泄状況等身体の状態や日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等記録し問題解決に活かしている。記録はいつでも全ての職員が確認でき、口頭でも共有の機会を持ちケアの改善につなげている	個別にファイルを用意し、食事・水分出納・排泄状況等身体の状態や日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等記録し問題解決に活かしている。記録はいつでも全ての職員が確認でき、口頭でも共有の機会を持ちケアの改善につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は出来る限り個々の満足度を高めるようチーム一丸となって努めている。	本人家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は出来る限り個々の満足度を高めるようチーム一丸となって努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター・民生委員・老人会役員等参加頂き情報交換や地域の文化祭に参加するなど豊かさに繋がっている。	運営推進会議に地域包括支援センター・民生委員・老人会役員等参加頂き情報交換や地域の文化祭に参加するなど豊かさに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(西) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携担当担当看護師を位置づけ納得の医療が受けられるようかかりつけ医と連携している。又、受診や通院はご家族と意向を確認しながら応じ、家族同行が困難な時は職員が代行している。医療についてはご家族の評価も高い。	医療連携担当担当看護師を位置づけ納得の医療が受けられるようかかりつけ医と連携している。又、受診や通院はご家族と意向を確認しながら応じ、家族同行が困難な時は職員が代行している。医療についてはご家族の評価も高い。	本人や家族の意向に沿ったかかりつけ医である。往診などのメリットから入居後に協力医をかかりつけに変更する場合もあるが、その際は丁寧な説明を心掛けている。受診には職員が付き添うことも多く、結果が急を要するものでなければ後日報告し、ケースによっては管理者から伝えることもある。他科診療が必要な時も家族の希望を確認し支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化も職場内の看護職或いは医療連携看護師と情報共有し適切な医療に繋げている。	体調や些細な変化も職場内の看護職或いは医療連携看護師と情報共有し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活支援状況を医療機関に情報提供し3-5日毎に職員が見舞い、入院によるダメージを極力防ぐ為対応可能な段階でなるべく早く退院できられるようご家族とも情報交換し退院支援している。	入院時には生活支援状況を医療機関に情報提供し3-5日毎に職員が見舞い、入院によるダメージを極力防ぐ為対応可能な段階でなるべく早く退院できられるようご家族とも情報交換し退院支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人・ご家族のご意向を看取りケアプランを文書で確認し定期的にプランを見直し安心して納得した最後が迎えられるよう支援している	入居時より本人・ご家族のご意向を看取りケアプランを文書で確認し定期的にプランを見直し安心して納得した最後が迎えられるよう支援している	入居契約時に意向の確認を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。体調の変化により家族の気持ちも揺れ動くことを踏まえ、何度でも話し合いを重ねることとしている。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう、その時期が迫れば勉強会や連絡網の確保など体制を整える手筈になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行うと共に事例が発生した時に事例検討会で次に繋がるよう備えている。又、かかりつけ医とも24時間体制で連絡が取れ指示を仰げる体制がある。	定期的に研修を行うと共に事例が発生した時に事例検討会で次に繋がるよう備えている。又、かかりつけ医とも24時間体制で連絡が取れ指示を仰げる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を実施しているが幸い、災害の少ない地域のため想定が困難で対策にも苦慮している。非常用食料や飲料水は3-7日常備している。	年2回は避難訓練を実施しているが幸い、災害の少ない地域のため想定が困難で対策にも苦慮している。非常用食料や飲料水は3-7日常備している。	訓練の時間帯は昼間で、夜間は想定のみである。年一回は消防署も立会い、利用者と一緒に避難を体験している。近年、住民への協力要請はしていないが、地区の行事等で立ち寄るメンバーの殆どが地元消防団員であり、施設内の状況は知ってくれている。スプリンクラーなど設備も整っており、職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。自然災害を想定する中で、落雷による被害は直接ではなくても累が及ぶことから対策に挙げている。その他にも建物から退避する段取りや一次避難場所、非常食等の備えも確認されている。訓練で課題や反省点があれば速やかに改善され全員に周知している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修で尊厳や権利を学ぶと共に人生の先輩であることを念頭に日常のケアで配慮できているか注意してケアしている。自己決定については日々の生活の中で支援できるよう心がけている。	プライバシー保護の研修で尊厳や権利を学ぶと共に人生の先輩であることを念頭に日常のケアで配慮できているか注意してケアしている。自己決定については日々の生活の中で支援できるよう心がけている。	羞恥心など最も配慮を要するのはトイレや入浴の介助である。職員は、ドアは閉める、周囲に見えない立ち位置でケアをする等々、基本的なことをきちんと行っている。また、個人情報への取扱いに対する意識も高い。ホーム便り等への写真掲載は入居時に確認しており、居室の名札も承諾を得た方のみとなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居時より無理強いをしない。強制をする所では無いことをご家族にもご理解頂き、一人ひとりの状態に合わせ本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。	入居時より無理強いをしない。強制をする所では無いことをご家族にもご理解頂き、一人ひとりの状態に合わせ本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間の強制は無く、晩酌を楽しんで頂いたり、好きな場所で過ごしていただく利用者の方のペースや楽しみを大切に間わせて頂いている。行事もその方の意思を尊重している。	基本的な一日の流れはあるが時間の強制は無く、晩酌を楽しんで頂いたり、好きな場所で過ごしていただく利用者の方のペースや楽しみを大切に間わせて頂いている。行事もその方の意思を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(西) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より個性を大切にしている。化粧やヘアカラー・訪問美容では個性に合わせてヘアスタイルを整えて頂くなど好評である。	日頃より個性を大切にしている。化粧やヘアカラー・訪問美容では個性に合わせてヘアスタイルを整えて頂くなど好評である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いに合わせて個別対応の献立にしたり、一連の作業は能力に応じて役割分担して頂いている。	食事の好き嫌いに合わせて個別対応の献立にしたり、一連の作業は能力に応じて役割分担して頂いている。	献立は外部委託の栄養士が作り、栄養価も計られている。毎月の給食会議で利用者の希望や誕生日などの行事食が組み込まれている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材の時は代替の用意もある。利用者には本人がおいしいと話したこと等が記されている。できるだけ自分で口へ運んでもらうためにスプーンや器にも工夫がみられる。晩酌を楽しみにしている利用者は週一回、その買物へも出掛けている。食事中は職員は傍らに座り、必要に応じて介助を行うというスタイルである。利用者によっては足元に踏み台を置き、椅子との調整を行うことで安定した姿勢での食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの良い食事献立の中で食事量・水分出納・排泄表で個々の状態を把握し体調維持の支援をさせて頂いている。	栄養士によるバランスの良い食事献立の中で食事量・水分出納・排泄表で個々の状態を把握し体調維持の支援をさせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア支援しブラッシングできない方はスポンジや口腔ケア製品を使用し口腔トラブル防止に努め食事の楽しみに繋がるよう支援している。	毎食後口腔ケア支援しブラッシングできない方はスポンジや口腔ケア製品を使用し口腔トラブル防止に努め食事の楽しみに繋がるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターン表でトイレ排泄訓練やさりげない誘導でトイレ排泄維持支援し、オムツ排泄ケアでは速やかなケアでおむつかぶれトラブル防止している。	個別の排泄パターン表でトイレ排泄訓練やさりげない誘導でトイレ排泄維持支援し、オムツ排泄ケアでは速やかなケアでおむつかぶれトラブル防止している。	排泄に関して自立した利用者も若干名はいるが、任せたままでなくさりげない見守りを行っている。パターン表により予測が可能となることから誘導ができ、オムツ類の使用改善へと繋がった例もある。職員には日頃からコスト意識があり、利用者にとっては負担軽減にもなっている。日中はトイレでの排泄を主とし、便座周りの補助具では手摺りや可動式ひじ掛け、背もたれもあり、座位を保ちやすく自立も促している。トイレ内の手摺りなど手を触れる箇所はこまめな消毒も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立とし、屋間の運動も勧めている。	食物繊維の多い献立とし、屋間の運動も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を確認しこれまでの習慣を参考に支援し出来るだけお風呂を楽しみに繋げられるように誘導時より職員間で連携したり無理強い感が無いよう個別に工夫している。	本人の意思を確認しこれまでの習慣を参考に支援し出来るだけお風呂を楽しみに繋げられるように誘導時より職員間で連携したり無理強い感が無いよう個別に工夫している。	入浴はいつでも可能である。拒まれる場合は職員の工夫や対応スキルが活かされ、入浴後には満足の表情が窺える。入浴が難しい日は清拭や足浴で対応し、着替えを行い、清潔保持に努めている。市販の入浴剤を使わず、夏場の桃の葉湯、冬至の柚子湯、秋には紅葉を浮かせ四季折々の風情も楽しんでもらっている。浴槽に浸れば低い窓越しに外の景色も見え、リラックスした中で想いを話す利用者もある。また、浴室内にも暖房設備があることでヒートショック対策になっている。脱衣場の隣にトイレがあることも使い勝手がよい。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、職員は見守りながらのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで午睡したり疲れ具合で休息や活動を調整している。夜起きられる方は話相手やお茶の時間を作る等対応し生活リズムの見直しを支援している	その方のペースで午睡したり疲れ具合で休息や活動を調整している。夜起きられる方は話相手やお茶の時間を作る等対応し生活リズムの見直しを支援している		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルで服薬情報を把握し正確に服薬されるよう支援している	個別のファイルで服薬情報を把握し正確に服薬されるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力等を参考におひとりお一人の楽しみを介護計画書に反映し支援に努めている。	生活歴や能力等を参考におひとりお一人の楽しみを介護計画書に反映し支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方のレベルに合わせご家族と相談して積極的に勧めている。具体的には定期的買い物、散歩、食事会等実績に繋がっている。	その方のレベルに合わせご家族と相談して積極的に勧めている。具体的には定期的買い物、散歩、食事会等実績に繋がっている。	本人から外出の希望が聞かれることは殆どないが、開花など話題を振れば興味を示す利用者もいる。年中行事にはドライブ等も予定され車椅子対応車両もある。日常の買物に職員と出掛ける利用者もいる。名護屋城跡のすぐ下に位置する事業所は自然に恵まれ、敷地内でも中庭のウッドデッキ、裏庭の桜、季節ごとの花々など十分に五感の刺激や日光浴ができる環境である。ただ歳を重ねるごとに体力の低下は否めず、要介護度の高い利用者が複数いることも現状である。職員には、歩行が可能であればもちろんのこと、車椅子への移乗ができるなら一緒に外へという思いはある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会の少ない方には訪問美容時に各自能力に合わせて支払いをされるよう美容師さんへの協力をお願いして支援をしている。	外出の機会の少ない方には訪問美容時に各自能力に合わせて支払いをされるよう美容師さんへの協力をお願いして支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に日常的に適切な支援を心がけている。ご家族にもいつでも取り次ぎ出来ることを伝えている。	自由に日常的に適切な支援を心がけている。ご家族にもいつでも取り次ぎ出来ることを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(東)	自己評価／ユニットB(西)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは清潔感を第一に居間は室温、湿度、音響等常に配慮して調整している。また季節感については身近な花を飾り話題にするなど工夫をしている。	トイレは清潔感を第一に居間は室温、湿度、音響等常に配慮して調整している。また季節感については身近な花を飾り話題にするなど工夫をしている。	共用部分に限らず整理整頓を旨としている。廊下に歩行を妨げる物はなく、リビングやトイレ、浴室もきれいに掃除され嫌な臭気はない。リビングの一角に腰を下ろしやすい高さで設えた畳コーナーがあることで、ゆっくりと横になって過ごすこともできる。見上げれば名護屋城跡という窓はロールカーテンで日差しの調節も行っている。キッチンからの匂いや音は食事時を知らせ、職員との会話も近い。また、テーマカラーを虹色としている通り、各居室のドア色はそれぞれに違い、目印にもなっている。淡い色調で明るいフロアである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに居場所が自然にできおり穏やかに過ごされている。	それぞれに居場所が自然にできおり穏やかに過ごされている。	/	/
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談して協力を得ている。	ご家族に相談して協力を得ている。	居室には使い慣れた物などを勧め、火気等の危険物以外に制限はしていない。仏壇を持つ利用者は職員と庭の花を摘み、おやつを供え、自宅と同じように過ごしている。また、掃除を手伝える利用者とは一緒に行い、片付けや飾り付けも本人と話しをしながら居心地良く過ごせるよう支援している。居室の換気も心掛けており、不在時を見計らい窓を開放している。担当職員が中心となり衣替え等にも配慮している。家族の希望があれば居室への宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の能力、障害を共有し安心して生活に繋がられるよう配慮している。	その方の能力、障害を共有し安心して生活に繋がられるよう配慮している。	/	/

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない